

2 旧小柴貯油施設の立地環境について ～上位計画～

○旧小柴貯油施設は、緑の七大拠点「小柴・富岡」に位置しています。

- ◆旧小柴貯油施設は緑の七大拠点のひとつである「小柴・富岡」に位置します。
- ◆緑の七大拠点には、それぞれ大規模な公園が配置されています。
- ◆このような位置関係から、旧小柴貯油施設は緑の七大拠点「小柴・富岡」地区の拠点的な公園となる事が期待されます。
- ◆これまでに策定された跡地利用指針や水と緑の基本計画などの各上位計画では、旧小柴貯油施設の跡地利用の方向性として、緑の保全や公園整備が位置付けられています。

米軍施設返還跡地利用指針 平成18年6月)

- ①緑のオープンスペース、市民レクリエーション空間
現在の緑豊かな自然環境を活用し、また、周辺のオープンスペースと連携して緑のネットワークを構築して、市民のレクリエーション空間を形成します。
- ②魅力的な景観の保全
緑豊かで地形の変化に富んでおり、海への眺望や魅力的な地域景観を構成していることから、現在の地形を基本として土地利用を図ります。
- ③広域機能の立地
横浜横須賀道路金沢支線や金沢シーサイドラインなど交通利便性を活かし、広域機能の誘導を図ります。

横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画 平成19年3月)

- 市が都市公園として整備します。
- 「開港150周年の森」として記念植樹等市民参加の森づくりを進めます。
- 首都圏の環境再生の拠点としての整備のあり方を検討していきます。

都市計画マスタープラン 区プラン) 平成12年12月)

周辺の良好な緑地帯とともに、大規模な樹林地を未来に残し、広域避難場所を兼ねた公園や多目的運動施設など緑を生かしたオープンスペースとしての整備を図ります。

横浜市水と緑の基本計画 平成18年12月)

- 斜面緑地の保全 景観の確保
- 自然体験や広域住民が交流できる空間形成の検討

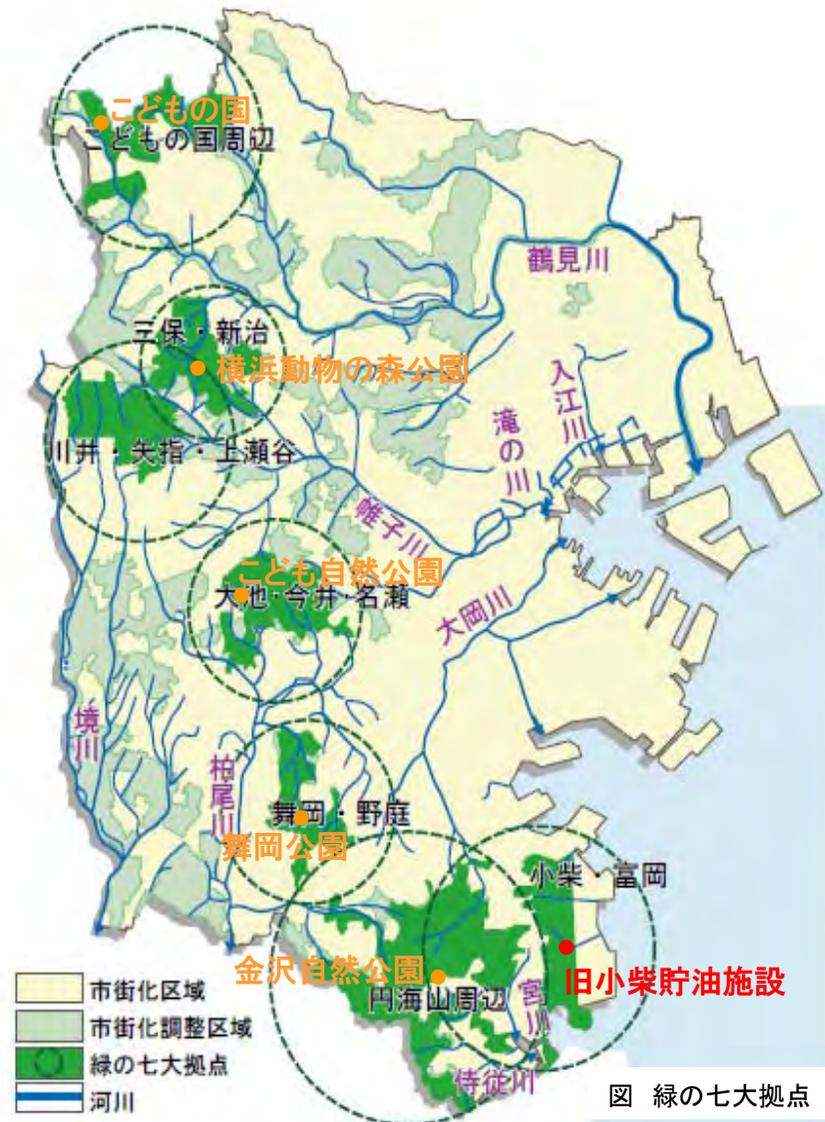


図 緑の七大拠点

2 旧小柴貯油施設の立地環境について ～大規模公園の立地状況～

- 既存の広域公園は緑の七大拠点内に整備され、各拠点を代表する公園となっています。
- 旧小柴貯油施設周辺には、既に4つの総合・運動公園が整備されています。

- ◆現在、横浜市内には4つの広域公園があり、緑の七大拠点のそれぞれの地区を代表する公園となっています。
- ◆旧小柴貯油施設の周辺においては、富岡総合公園、長浜公園、海の公園及び野島公園の4つの総合公園・運動公園が整備されています。

横浜市内の広域公園

名称	面積 (ha)	概要・導入施設
金沢自然公園	57.8	◎動植物園 動物園、植物区(子ども広場(アスレチック遊具10点)、湿地、散策樹林、池)、バーベキュー広場(7600㎡)、展望台
横浜動物の森公園	103.3	◎動植物園 動物園、繁殖センター、植物園(将来)、遊具
子ども自然公園	46.4	◎子ども向けの野外活動、自然観察 ちびっこ動物園、バーベキュー広場(30卓)、青少年野外活動センター、野球場、教育水田
舞岡公園	28.5	◎田園風景の保全、農業体験、自然観察 水田、雑木林、古民家、休憩施設

旧小柴貯油施設周辺の総合公園・運動公園

名称	面積 (ha)	概要・導入施設
富岡総合公園	21.9	◎返還跡地を利用した樹林保護、運動施設、広場 アーチェリー場(20レーン)、テニスコート2面、多目的広場、池、休憩所
長浜公園	15.4	◎野鳥観察、運動施設 汽水池(野鳥観察園)、野球場1、球技場1、テニスコート6面、スポーツセンター、アスレチック遊具
海の公園	46.4	◎海水浴場 人工砂浜、芝生グラウンド、屋外バスケ、バーベキューサイト40、ボードセーリング、ドッグラン
野島公園	17.7	◎バーベキュー・キャンプなど臨海レクリエーション、運動施設 運動広場、野球場1、青少年研修センター、キャンプ場60張、展望台、遊具

※) 広域公園等の内容(国土交通省ホームページより)

広域公園: 主として一の市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする公園で、地方生活圏等広域的なブロック単位ごとに1箇所当たり面積50ha以上を標準として配置する。

総合公園: 都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積10~50haを標準として配置する。

運動公園: 都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする公園で都市規模に応じ1箇所当たり面積15~75haを標準として配置する。



図 広域公園・総合公園・運動公園位置図

2 旧小柴貯油施設の立地環境について ～金沢区の公園等の状況～

○金沢区は、市の中でも公園が多く、旧小柴貯油施設の周辺には特徴ある公園が立地しています。

- ◆金沢区の一人あたり公園面積は13.6㎡と、市平均の4.65㎡を大きく上回り、18区中で最も高い数値となっています。
- ◆金沢区緑被率は31.8%であり、市平均(31.0%)並みです。
- ◆前頁のとおり、旧小柴貯油施設の近傍には、「富岡総合公園」、「海の公園」、「野島公園」、「長浜公園」など特徴ある公園が立地しています。



保全・活用方針	主な水と緑の拠点 (平成17年度末)
<ul style="list-style-type: none"> ・海の公園、野島公園、八景島、平潟湾を連続した海洋性レクリエーションの拠点として整備します。 ・称名寺などの歴史的な資産と一体となった社寺林を特別緑地保全地区などに指定します。 ・柴農業専用地区を市民が農とふれあう場として整備します。 ・富岡総合公園、富岡八幡公園、長浜公園に連担する樹林地を保全します。 ・返還された旧小柴貯油施設跡地は、身近に自然が体験できる豊かな緑の空間、広域の住民が交流する空間の形成を目指します。 	<ul style="list-style-type: none"> <樹林地> ・称名寺市民の森(10.2ha) ・柴・長浜特別緑地保全地区(1.3ha) <農地> ・柴農業専用地区(17.4ha) ・柴シーサイドファーム(2.5ha) <公園等> ・富岡総合公園(21.9ha) ・長浜公園(15.4ha) ・海の公園(47.0ha) ・野島公園(17.7ha) ・長浜野口記念公園(1.1ha) ・金沢緑地(15.3ha) ・港湾緑地(6.3ha) ・八景島(24.0ha) ・称名寺

■行政区別 1人あたり公園面積
(単位：㎡、平成19年3月31日現在)

区	1人あたり公園面積	同左 (県立公園含む面積)
鶴見区	1.41	2.53
神奈川区	3.60	3.60
西区	2.93	2.93
中区	6.58	6.58
南区	2.06	2.06
港南区	3.56	3.56
保土ヶ谷区	2.91	4.61
旭区	6.58	6.58
磯子区	2.55	2.55
金沢区	13.60	13.60
港北区	3.49	3.49
緑区	3.67	6.29
青葉区	3.28	3.28
都筑区	8.55	8.55
戸塚区	3.71	3.71
栄区	4.70	4.70
泉区	2.23	2.23
瀬谷区	2.85	2.85
市全体	4.34	4.65

※都市公園法による住民一人あたりの標準公園面積
市街地 5.5m²/人
市町村 10.0m²/人

単位：%

区名	緑被率 (樹林地・農地・草地)	区名	緑被率 (樹林地・農地・草地)
金沢区	31.8	磯子区	27.8
鶴見区	14.7	港北区	27.8
神奈川区	23.5	緑区	44.3
西区	13.1	青葉区	34.0
中区	15.2	都筑区	36.1
南区	16.0	戸塚区	39.0
港南区	23.0	栄区	42.1
保土ヶ谷区	32.2	泉区	41.1
旭区	37.1	瀬谷区	35.9
		全市	31.0

表 区別水緑率(平成16年)

図 緑の七大拠点「小柴・富岡地区」

2 旧小柴貯油施設の立地環境について ～交通基盤～

○高速道路出入口や鉄道駅が近傍にあり、比較的、交通基盤が充実した環境にあります。



図 周辺交通基盤

2 旧小柴貯油施設の立地環境について ～防災機能～

○防災機能としては、広域避難場所や広域応援活動拠点とすることが想定されます。

◆平成18年度に国土交通省・農林水産省が実施した国土施策創発調査「首都圏郊外の新しい環境空間の創造方策と管理に関する調査」において、旧小柴貯油施設は、「平坦地が少ないため、広域レベルの防災拠点とするためには、造成など環境整備が必要」とされています。

◆地域レベルの防災拠点としては、立地環境から主に西柴地区や並木地区南部方面を想定した広域避難場所とすることが考えられます。

◆また、自衛隊・消防・警察の活動拠点となる「広域応援活動拠点」が各区3箇所程度指定されており、金沢区では金沢総合高校及び釜利谷高校の2箇所が指定されています。

◆今後、さらなる検討が必要ですが、広大な敷地を持つ旧小柴貯油施設を広域応援活動拠点として位置付けることが考えられます。

